

第5学年総合的な学習の時間学習指導案

日時 平成18年11月22日(水)5校時
児童 5年2組(男13名女10名計23名)
授業者 石川和広

1 単元名「子供の権利条約」について考えよう～世界の子供たち～

2 単元について

(1) 児童について

児童は、3年生、4年生、そして5年生1学期の総合的な学習の時間で学ぶ経験を通して、学習の仕方、学習の流れ、他者へ伝えていくことの大切さを知ることができたと考えている。そして、総合的な学習の時間において、探究活動に意欲的に取り組み、自分達の方法で調べたり、わかりやすくまとめたりし、それを発表し発信する力が育ってきている。

児童は、本校の2年間の人権教育によって、「人権」ということへの理解 自分の生活をふりかえり、今後の生活に生かしていく 学習の中で、自分の考えをしっかりと表現し、自分の考えも、他者の考えもどちらも大切にし、そこから学んでいくという活動を続けてきた。その中で、人権理解や人権感覚が深まってきたと考える。

児童は普段の生活の中で、言葉遣いに気をつけたり、友達の良い点を見つけ表現したりすることはできてきている。しかし、言動や行動を見ていると本当の意味での他者を思いやる気持ち、自分も他者も大切に共に生きていくという意識までには高まっていない。そこで、子供達には、他国の子どもたちの生活環境の状況に目を向けることにより見聞を広めさせ、自他共に人間らしく生きていくとはどういうことで、自分はどのように行動するのが望ましいのかを考えることのできる力を育てていく必要がある。

(2) 題材について

本単元の「子供の権利条約」について考えよう～世界の子供たち～は、子供の権利条約や、世界の子供たちの暮らしについて学び、世界の子供達が人間らしく幸せに生きているのかどうかその状況について理解していくこととなる。

自分達を含め、世界の子供達はこの条約によってどのように守られているのだろうか。また、世界の子供達の人権はきちんと守られ、人間らしく幸せに生活することができているのであろうか。また、世界の子供達の状況を知り、自分達は何ができるのだろうか。この疑問について児童自身が課題を決め、追求していくのがこの単元である。そこには今まで知らなかった知識や、自分と他者の生活の大きな違いがあり、それを発見していく題材となっている。課題を追求していく活動を通して、世界の子供達の生活の現状についての理解と関心が深まっていくであろうと考える。

この単元を学ぶことによって同じ人間として他者とどのようにかわり、これからの生活でどのように生かしていくべきであるのかを考えることができる単元であろうと考える。

(3) 人権教育の観点から

人権理解に関わって

現在、自然や生活環境が厳しく、支援を必要としている開発途上国はおよそ130カ国あり、その人口は40億人ともいわれ、全人類の人口の4分の3を占めている。さらに、その中で、想像もできない貧しさに苦しんでいる開発途上国は40カ国以上もあり、それらの多くの国は気候や地形など自然条件が厳しいだけでなく、経済力が弱いため電気や道路などの開発が進まないという状況がある。その国の中で弱者である子どもは、やはり過酷な状況を強いられ、乳児死亡率をみても開発途上国は日本の40倍になっている。(外務省監修 日本視聴覚教材センター制作「開発途上国ってどんな国?」～小さな友情から大きな夢へ～からの資料による。)この題材では、人権教育の重要課題である「子ども」を取り上げ、開発途上国の子供達の生活について調べていくことになる。また、子供の権利条約について学び、開発途上国の子供達の生活と照らし合わせて、この条約が批准されるに至った経緯、現在の状況についても学ばせたい。

この題材で児童は、世界の子供達の生活環境の様子についてビデオ等で共通体験をしていくことになる。児童は自分達の生活環境はもちろん理解できているわけだが、他の国の子供達のこととなるとテレビ等で紹介されたものを見たことがあるだけで、その経験や理解は乏しいと考える。

自分と同じ年頃の子供達が、ある国では清潔な飲み水に恵まれず、また、ある国では日々の食事を満足に食べることができず、さらに、ある国では生活のために働かなければならず、学びたくても学校に通うことができない。このような現状を学んでいくこととなる。

そこで、本単元では、どこの国の子供であっても同じ人間であり、どの子も幸せに生活していく権利を持っていること、その権利を保障するため「子供の権利条約」が制定されているということに気付かせていきたいと考える。

育てたい力について

「思考力・判断力」にかかわって

既習の総合的な学習の時間の経験や共通体験から、「世界の子供達の生活の様子」に関する疑問点（「子どもの権利条約」とは何か。他国の子供達はどのような生活をしているのか。等）を導き出し、課題を決定させる。課題の調査のしかたを自分で判断し、まとめ方発表の仕方とも考えさせる。

「受容力」にかかわって

様々な場面で、常に他者との協議をさせ、それぞれの考えの違いや良さに気づかせ、その中からよりよい方法・考えをえらんでいく。ふりかえりの場面では、今日の学習でがんばった友達を発表させ、お互いを認め合うようにしたい。

また、他国の子供についてその生活環境を知り、その状況を受け入れさせることによって、自分のこれからの表現行動につなげていきたい。

「表現力・行動力」にかかわって

自分の考えやグループの考えを友達に伝え、児童相互で意見交換をさせる。また、調べた内容のみの発表に終わるのではなく、その中から自分の意見を持ち、調べたことを自分のこれからの生き方にどう生かしていくのかを考えさせ、行動させる。具体的な行動としては、・自分達が調べたことを全校に発信し、理解してもらう。・児童会と共に募金活動につなげていく。

・自分の生活を見直し、節約や自分が出すごみの量をへらすよう心がける。などが挙げられる。

(4) 指導にあたって

子供の権利条約について理解し、世界の子供達の生活についての現状を知り、そこから自分の考えを持ち、自分から進んで表現したり行動したりできることを目指し学習を進めていく。

調べ学習では、共通体験としてビデオを見たり、資料からみんなで学んだりすることの他、インターネットや図書室の本で調べたりして情報を収集させることから自分の課題に迫らせたい。

まとめの段階では調べたことに対する自分の考えを持たせ、その考えを交えながら他者に伝え広めていく活動を行いたい。世界の子供が現在おかれている現状から、自分の考えを持ち、自分はどのような行動ができるのか、これから学んだことをどのように生かしていったら良いかなどの思慮を深めながら、この学習を通して児童のものの見方や考え方を広げさせていきたい。

3 単元の目標

「子供の権利条約」や世界の子供達の生活の様子について調べ、人権について興味関心を高めるとともに、調べたことに対する自分の考えを持ち、自分の生活に生かそうとすることができる。

既習の内容や、共通体験を通して「子供の権利条約」や世界の子供達の生活の様子に関する課

題を見つけ、調査まとめることができる。

調べたことの中から「子供の権利条約」に関する自分の考えを持つことができる。

調べたことに、自分の考えを加味しながら他者に伝え・広め、自分の生活に生かそうとすることができる。

4 単元指導計画（18時間）

月	学 習 内 容	評 価 規 準		
		課題を見つける力	課題を解決する力	他者と関わる力
10	1 導入・共通体験（2時間） オリエンテーションをする。 他の国の子供達の生活や「子供の権利条約」について知っていることを話し合う。 世界の子供達の生活を紹介したビデオを見る。「子供の権利条約」に関する本などの資料にふれる。	学習活動を把握し、活動に対して自分の考えを持つことができる。 共通体験の内容を理解し、自分の考えを持つことができる。	世界の子供達の生活や子供の権利条約について知っていることを表現することができる。 ビデオや資料から得た知識を、自分の課題解決に生かしていこうとしている。	これから総合的な学習の時間で追及していく題材について知り、自分の経験や知識を互いに教えあうなど、意見交流を行っている。 共通体験で得た知識から自分の考えを持ち、意見交流ができる。
10	2 課題設定・計画立案（1時間） 課題について考える。 課題を決定する。 課題を解決する方法を決める。 日程等の計画を立てる。	オリエンテーションや共通体験、友達との意見交流から、疑問・考え・イメージを広げ、追及していく課題を設定することができる。 どのような計画で調査・まとめをすればよいか見通しをもって考えることができる。	活動の見通しを持ちながら課題を設定することができる。 自分の課題を解決するために、適切な計画を立案している。解決に向けて、段階的な計画を立てている。	友達と意見交流する中から、それぞれの考えの違いに気づき、良い点を取り入れようとしている。 友達と意見交流する中から、それぞれの考えの違いに気づき、自分の解決方法に良い点を取り入れようとしている。
10 ・ 11	3 調査・まとめ1（5時間） 調査活動をし、課題を解決する。 調査活動の内容についてまとめる。	集めた情報をまとめ、他者に良く伝えるように工夫している。	集めた情報を適切に選択している。	児童相互で協力し、意欲的に情報を集めたり、まとめをしたりすることができる。
11	4 中間発表会をする（3時間） 中間発表会を行う 中間発表会を行う （本時） 中間発表会を行う	自分で調べたことについて、自分はどうのような考えを持ったのか表現している。	課題について調べたことを意欲を持って発表している。	友達との意見交流から、さらにどのようにすべきか考えようとしている。
11 ・ 12	5 調査・まとめ2（4時間） 中間発表会で出された意見をもとに更に良い発表を目指して内容を改善していく。	自分が調べた内容から、自分の考えを持ち、それもあわせて発表しようとしている。	友達の意見を新たな課題と位置づけ、意欲的に調べようとする。	中間発表会で出された意見をもとに、さらに良い発表にしようとしている。

12	6 発表・発信（3時間） 発表会を行う 発信をし、活動の振り返りをする。	自分で調べたことについて、自分はどのような考えを持ったのか表現し、それを今後の生活に生かそうとしている。	意欲を持って発表に取り組み、相手の立場に立って伝えようとしている。友達の発表の良さを認め、自分の発表に生かそうとしている。	他のグループの発表を聞き、自分の考えを持ち、表現することができる。自己の学習をふりかえり、次の課題へつなげようとしている。
----	--	--	---	---

6 本時の指導

(1) 目標

中間発表会から、各班の良い点、自分たちの発表に取り入れたい点、自分の考えについて書いたり発言したりして意見交換をし、今後の発表に生かすことができる。

(2) 人権教育の観点から

本時は、C班とD班の発表を聞き、開発途上国の子供達の生活の現状について知り、どの国の子供も幸せに人間らしく暮らすことができているのかについて気付かせる。また、子供の権利条約についての発表をしたり、聞いたりすることによって自分の考えを深めていく。

また、本時は自他のグループの中間発表から学び、更に良い発表をするためにはどうすべきか考える時間である。友達同士で意見交換をすることによって自他の考えの違いや良さに気づかせる。また、発表を聞きどんな新しい発見があったのか、その発見から自分はどんなことを考えたのか、グループや全体の中で表現する。

(3) 展開（10 / 18）

段階	学 習 活 動	予想される児童の反応 指導上の留意点・支援（ ）	評価（ ）・人権教育の観点（ ）
つかむ 5分	1 前時までの自分の調査内容を想起する。 2 本時の課題をつかむ 中間発表会 をし、各班の良かった点、自分たちの発表に取り入れたいことは何かについて話し合おう。	自分の課題を話させ、自分たちの発表について確認と交流をし、前時までの学習を想起させる。 今日の学習課題を読みます。	課題を把握できたか。
深める・まとめる 30分	3 C班とD班の発表を聞く 自ら考える場 4 C班とD班の発表で良かったところ、自分たちの発表に取り入れたいところについて学習プリントに書く。 互いに認め合う場 5 グループ学習を行い、意見	C班とD班に発表してもらいます。次の2つの点について考えながら聞いてください。 発表の良かったところ。 自分たちの発表に生かせることは何か。 ・ の国の子供たちの生活の様子がよくわかる発表になっていた。 ・ 表やグラフでの表し方がわかりやすかった。自分たちの発表にも取り入れたい。 ・ 毎日の食事について良く分かったので、自分たちの発表にも取り入れたい。 ・ 子供の権利条約についてよくま	どの児童にも自分の考えをまとめることができる十分な時間を与え、良かったところ、改善点、自分の考えを書かせる。（思考力・判断力） 友達の意見には良いところが必ずあるということを強調し、お互いに学びあえる雰囲気作りをする。（思考力・判断力・受容力・行動力）

	<p>交流をする。</p> <p>6 班ごとに発表をし、お互いに良い点を認め合ったり改善点を教えあったりする。</p>	<p>とめてありわかりやすかった。</p> <p>各班ごとに話し合ったことを発表してください。</p> <p>A班とB班はみんなからの意見を聞いてどのようにしていこうと考えましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さんや 班の意見を聞いて、これからこのようなことを調べたり、 班のこの部分を取り入れていきたいです。 	<p>グループ学習で自分なりの意見を発表し、その中からお互いの良さを認め合う。(思考力・受容力)</p>
<p>ふりかえる10分</p>	<p>学習を振り返る場</p> <p>7 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の学習で努力していた人を相互に認め合う。 <p>8 次時の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 君が、の良いところをいっぱい見つけ、たくさん発表していたのがよかったです。 ・ さんの という意見が、自分は思いつかなかったので見習いたいなあと思いました。 <p>次の時間は中間発表 でE班・F班の発表から学びます。</p>	<p>自分の学習について振り返らせるとともに、友達の見解の良さから、共に学ぶことの大切さを意識させる。(受容力)</p>

(4) 評価

中間発表会を聞き、各班の良い点、自分たちの発表に取り入れたい点、自分の考えについて書いたり発言したりして意見交換をし、互いに高めようとする事ができたか。

7 板書計画

「子供の権利条約」について考えよう～世界の子供たち～

C班の発表内容	D班の発表内容	<p>児童の考えをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ の国の子供たちの生活の様子がよくわかる発表になっていた。 ・ についてよく分かったので自分たちの班の発表にも取り入れたい。
		<p>発表を聞いて自分が考えたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分と同じくらいの年齢なのにずいぶん違う生活をしているんだなあ。 ・ 食事がきちんととれない子供もいっぱいいるんだ。自分たちにできることはなんだろう。

この単元終了時にたどり着きたい児童の考えの例

私は今まで「子供の権利条約」や他国の子供達の生活について調べてきましたが、各班の発表からどの子供達も同じ人間なんだと感じました。自分の生活のことしか知らず、他の国の子どもたちについてあまり深く考えたことはありませんでした。しかし、これからは自分も含めてどの人も人間らしく平等に生きていくことが大切なんだと思いました。そして自分はこれから のようなことができると思うので実際に行動していきたいと思います。